

地域の絆

熊本県立熊本北高等学校 1年 東 凜乃

私は幼い頃8年間、父の転勤で沖縄に住んでいました。沖縄では「ゆいまーる精神」というものがあります。それは、平和の名のもとに人々が戦ってきた土地だからこそその助け合い、結びつき、絆のことをいうそうです。熊本にも沖縄のような人と人とのつながりがあるのだろうかと考えてみました。

私の住んでいる地域では、夏になると毎週のように夏祭りが行われています。それはそれぞれの場所でたくさんの人々が楽しめるように工夫をこらしてあります。私の母も私達の住んでいる地域で青少年育成推進員というものをしています。休止状態の子ども会の代わりに地域の子ども達同士でふれ合える機会を作ろうと様々な行事を行っています。新入生歓迎会やこいのぼり作り、七夕会、文化祭、クリスマス会などの中に夏祭りも含まれています。どの行事ももちろん準備は必要です。その中でも夏祭りの準備は特に大変そうです。2か月程前から役員の会議に参加したり、内容を企画したり、手伝ってくれる人を探したりします。母の周りには協力を呼びかけた時に快諾してくれる人がたくさんいます。それは日々の生活の中で関わったり、ふれ合ったり、助け合ったりして信頼関係を築くことができているからだと思います。そんな仲間と一緒に商品の買い出しに行ったり準備をしたりと楽しそうです。そんな母を見ると私まで温かい気持ちになります。

私自身もイベント当日手伝うことがあります。そこでは年齢に関係なくたくさんの方とふれ合うことができます。この時出会った方々が後日話しかけてくださることもあります。そんなとき私は、手伝って良かったと毎回思っています。また、様々な地域の夏祭りにいろいろな地域に住んでいる友達と行きます。私はつい焼き鳥を汗だくで焼いていたり、暑い中接客したりしている裏方の人達に目が向きます。ここにも「地域を大事にしている人」がいるんだとなんとか嬉しくなります。

なぜ、地域のために活動しているのかたずねてみました。すると母は、「私達も地域に助けてもらうことがたくさんある。その分を家族でできることで恩返しをしたいと思っている。この小さい地域で仲良くすることでいつか地球全体が平和になることにつながるのではないか。」と話してくれました。地域のことについてそんな風に考えていたのかと驚くとともに、私ももっと地域について真剣に考えなければいけないと感じました。

私にとってこの地域はふるさとです。地域の関わり合いの中でただ人まかせにするのではなく、自分から積極的に動いていきたいです。そして、未来の子ども達も笑顔で楽しめるよう地域の伝統作りを続けていきたいです。私のこの小さな思いがこれからの地域活性化につながれば嬉しいです。